

生活者ネット こくぶんじ

No.185
2025年10月

発行／国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者／田中由紀
連絡先／〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイツ103
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878
http://kokubunji.seikatsusha.me/ E-mail:kokubunji@seikatsusha.net



国分寺市議会議員
たかせ
高瀬かおる



国分寺市議会議員
こさか
小坂まさ代



国分寺市議会議員
まつおか
松岡まり

人材不足は深刻

東京の75歳以上の人口は181万人。そのうち単身世帯が4割、高齢者のみの世帯が3割です。介護を必要とする人が増えるなか、訪問介護事業所調査からは、人材不足と職員の高齢化、頻繁に行われる制度改正による事務の煩雑さが明らかになりました。

また、倒産が増えた要因として、人材獲得競争の激化や物価高騰、コロナ禍のダメージ等の厳しい運営が続いたところに、基本報酬の引き下げが追い打ちをかけたことがわかります。そもそも労働環境の厳しい介護業界です。労働に見合った賃金と、事業所が安定して継続できる報酬が必要です。しかし、介護保険制度は、税金と保険料の財源内訳が決まっています。報酬やサービス量の増加は、保険料の値上げにつながります。

なぜ訪問介護の基本報酬は引き下げられたのか

厚生省は、2022年度の経営実態調査で、訪問介護の利益率が他のサービスよりも高かったことを理由にしています。訪問介護には、大きく生活援助と身体介護があり、身体介護の方が報酬(単位数)が高く設定されています。認知症の初期においては、特に生活援助のスキルが必要ですが、生活援助を多く担う事業所ほど運営は厳しくなります。また、集合住宅を訪問する事業所が利益率を上げる一方で、離れた利用者を、雨の日も酷暑の日も一軒ずつ訪問する小規模事業所では、報酬に含まれない移動の時間がかかるなど、非効率で利益率は低くなります。実際に、小規模事業所の多くが赤字とも言われています。

基本報酬を見直すにあたっては、現場の聞き取りを充分に行い、実態と乖離のない基礎データを活用すべきです。疲弊する現場の課題を直視し、小規模事業所の丁寧なケアが継続できる制度へと見直すよう国に求めます。

介護保険制度が始まって25年。2024年の改正では、自宅での暮らしを支える訪問介護の基本報酬が引き下げられました。東京商工リサーチの調べでは、2024年の訪問介護事業所の倒産と休廃業の合計件数は529件で、前年より102件増加しています。国分寺市でも、2件が廃止、1件が休止中とのこと。東京・生活者ネットワークは、2024年7月～10月に、訪問介護事業所、サービス利用者、自治体、地域包括支援センターの4つの実態調査を行いました。

高齢になっても自分らしく！ これからの介護について考えよう

給付と負担 どう考える？

利用者調査では、「特に困っていること」は、買い物やお風呂・トイレ掃除が多く、「欲しいサービス」は、通院などの付き添いや外出支援、緊急時への対応など、多岐にわたっています。地域の健康づくりや介護予防、社会参加などの活動と介護サービスが合わさり、ひとり一人の暮らしや地域を豊かにします。また、地域の総合相談窓口として周知が広がる地域包括支援センターでは、相談内容が複雑化し、業務過多になっている様子がわかりました。

少子高齢社会の進行をふまえ、自分や家族に介護が必要になった時に、どのような暮らしを望み、どの程度のケアを求めるのか、給付と負担の在り方についても率直に、若い世代とともに議論し、制度を変えていく必要があります。

(高瀬かおる)



9/13
(土)

岩永やす代の

「わくわく都民農園小金井」見学

参加者の感想 2022年3月にオープンした交流体験農園

国分寺市内にもある市民農園が、武蔵小金井駅のすぐ近くに大きいがあるなど、なんとなく知っていました。ところがそれは東京都の農業支援、補助事業を利用して出来上がった農園だった、とわかりました。農地の貸借促進など東京都は、いくつかの施策を試みているのですね。



驚いたことが2つあります。一つは、運営している「わくわく都民農園小金井」のお話では、そもそも近くの商店街の人たちがお客さんに行ったアンケートで、町のつながりを求める声が多かったということから始まりました、ということ。もう一つは東京都の支援事業なので、募集をかけると23区在住者からも1,000人以上の応募があります、ということ。

便利な都会に一番ないものが何なのか、よくわかります。人間が暮らす場所、子どもを育て、老いを過ごす町としてのつながりを作れること、日に日に増えていくコンクリートの建物とマニュアル言葉で区切られた生活の中で、少なくなる木々や野草、土、畑、虫や鳥の声に触れ、共生できることで自分自身の五感を取り戻す生活こそ求められていると感じました。

農業は間違いなく、地域に暮らす人たちによって選ばれ守られる産業であり、人間的な生活を持続できる大切な方法だった、と実感できたように思います。

相続が発生すると必ず減少してしまう農地を、むしろこうした事業などによる地域への交流、福祉・保育連携によって評価し減税できないのかな、国分寺市にも広がるといいな、庭木で潤される街並みを作っている住宅も同じではないかな、など思わず夢見てしまう見学でした。(河村圭子)



このレポートは、UDフォントを使用しています。

国分寺ネット活動日誌

- 7月1日(火) 居住支援を考える国分寺の会参加
- 7月3日(木)市民連合@国分寺のサイレントスタンディング参加
- 7月4日(金)野川1000日の会参加
- 7月18日(金)東京都北多摩北部建設事務所の事業概要説明実施
- 7月19日(土)市民連合@国分寺のサイレントスタンディング参加
- 7月26日(土)「ごはんをつくって食べるじかん」オンラインお話し会実施
- 7月27日(日)子どもたちお話し会実施
- 7月29日(火)居住支援を考える国分寺の会参加
- 8月2日(土)保育園の保護者お話し会実施／「再エネ省エネフェア」参加
- 8月7日(木)「マサーヨがきく」開催
- 8月21日(木)野川の流量調査参加
- 8月23日(土)PFASの汚染を考える会の学習会参加
- 8月24日(日)おしゃべりタイム「多胎児家庭の支援」実施
- 9月7日(日)学習会「立川市と杉並区の居住支援協議会の状況」参加
- 9月13日(土)見学会 「わくわく都民農園小金井」実施
- 9月25日(木)一言提案についてシール投票実施



あなたの「ひとこと」から まちが変わります

運動グループ地域協議会は、毎年毎年「ひとこと提案」実施、集まった意見をもとにワークショップで意見交換しながら、2026年度の国分寺市や東京都予算に向け要望書を提出しています。今回もみなさまから多様でユニークな意見をたくさんいただきました。こんな使い道があったら、市民が元気にまちが楽しくなりそうですね。



- ☆家の樹木や草地は国分寺の共有財産として緑地管理者とし国分寺商品券を進呈(年2万円)したらどうかなあ
- ☆地域で働く40代以下に住宅支援を、高齢者は地域年金を支給
- ☆項目ごとに市民参加型予算を配分、みどりや子どものことなどを市民や子どもが話し合って決める
- ☆市内のあぶない場所をなんとかして
- ▼熊野神社前の通りは歩行者も自転車も危険
- ▼国分寺街道は歩道が狭くとにかく危険